らくらくリフト取扱説明書

JA3AX, JA3BX, JA3CX, JA4AX, JA4BX, JA4CX

商店、卸店、倉庫、農家、工場

などの二階への揚げ降ろし作業など多用途に最適。

TKK トーヨーコーケン株式会社

050272. jtd

－目次－

1．荷揚機の安全上のご注意

１－１　取り扱い全般について------------------------2

１－２　据え付け、取り付けについて------------------2

１－３　運転と操作について--------------------------3

１－４　荷揚機使用上のご注意------------------------4

１－５　保守点検、改造について----------------------7

１－６保管について---------------------------------7

２．荷揚機の保守・点検------------------------------8

３．仕様--9

４．外形図--9

５．組図--10

６．設置方法--11

７．配線図--14

８．全国指定協力工場一覧----------------------------15

050272. jtd

1. 荷揚機の安全上のご注意

荷揚機の使い方を誤ると、つった荷物の落下や感電などの危険な状態になります。

据え付け・取り付け、運転・操作、保守点検の前に、必ずこの取扱説明書を熟読し、正しくご使用下さい。

機器の知識、安全の情報、そして注意事項のすべてについて習熟してからご使用下さい。

この取扱説明書では、注意事項を「危険」、「注意」の２つに区分しています。

危険　取り扱いを誤った場合に、危険な状態が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。

注意　取り扱いを誤った場合に、危険な状態が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。

尚、**注意**に記載した事項でも状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。

いずれも重要な内容を記載しているので、必ず守って下さい。

【絵表示の例】

◇・△記号は、危険・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が記載されています。

⦸記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が記載されています。

●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な指示内容（左図の場合は必ずアースを接続してください）が記載されています。

＊お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管して下さい。

1－1．取り扱い全般について

危　険

取扱説明書●取扱説明書及び注意銘板の内容を熟知しない人は運転しないで下さい。

資格●法定資格のない人は、絶対に荷揚機操作、玉掛け業務を行わないで下さい。また、行わせないで下さい。

安全衛生教育●労働安全衛生法に規定されている安全衛生教育を受けた人が運転して下さい。

(労働安全衛生法第59条、労働安全衛生規則第36条、安全衛生特別教育規定第14条)

点検●作業開始前の点検や定期自主検査を必ず実施して下さい。

1－2．据え付け、取り付けについて

危　険

据え付け資格●専門業者または専門知識の有る人以外による据え付けは、絶対に行わないで下さい。

050272. jtd

アース工事●必ずアース工事を行って下さい。また、アースのほかに漏電遮断器を電路に取り付けて下さい。

据え付け場所●荷揚機に直接雨がかからないようにして下さい。長時間雨ざらしにせずに使用後は取り外すか、防水シート等をかけて荷揚機を雨から保護して下さい。

設置強度●荷揚機を設置する場所に十分な強度があることを確認して下さい。

1－3．運転と操作について

危　険

気をそらさない●運転中は荷から気をそらさないで下さい。

過巻上げ禁止●上下限のリミットスイッチを、常時使って止める使い方はしないで下さい。（リミット付の場合）

過巻下げ禁止●巻下げ時、下限を越えて運転しないで下さい。

押ボタン●使用前に押ボタンの動作を確認し、押ボタンが円滑に動作しないときは運転しないで下さい。
押し釦スイッチは確実に押し込んで下さい。中途押しで使用しますと接点焼けや抵抗器焼けなど故障の原因になります。

上下端部固定●梯子上端部と建物側をロープなどで必ずしばって下さい。
下部もロープで確実に固定し、絶対に倒れないように設置して下さい。
またウインチを建物側に直接当てぬように設置して下さい。

注　意

定格電圧●定格電圧以外では使用しないで下さい。

使用頻度●負荷時間率、始動頻度を超える使用は絶対にしないで下さい。
ウインチの反復定格は２５％ＥＤで、始動回数は１５０回／時間までです。

試運転●実荷で運転を開始する前に、一度空荷状態で試運転をしてから使用して下さい。

押ボタンの清掃●押ボタンの回りにじんあい、砂などがたい積しないよう常に清掃して下さい。

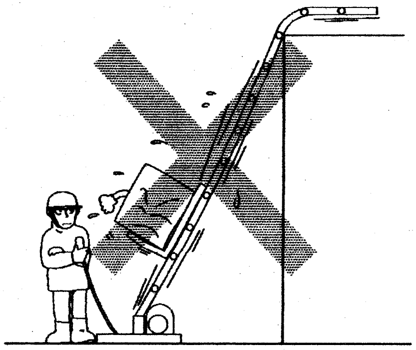
ワイヤロープ●ワイヤロープの乱巻は常に整列させて下さい。乱巻だと段落ちします。

1-4. 荷揚機使用上のご注意

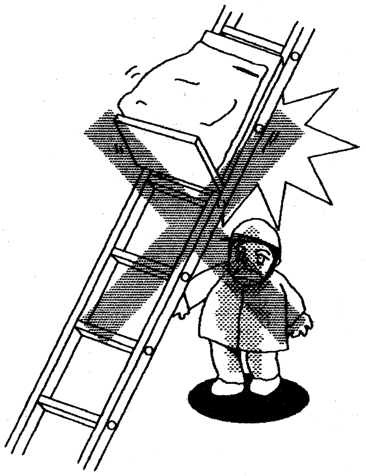
危　険

誤った操作は重大な傷害事故の原因となります。下記項目に注意してご使用下さい

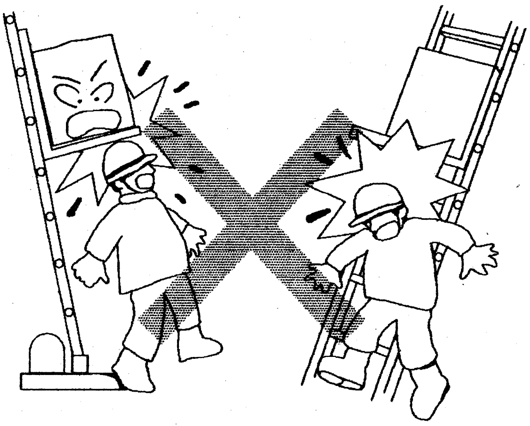
● 定格荷重以上の荷は積載しないで下さい。



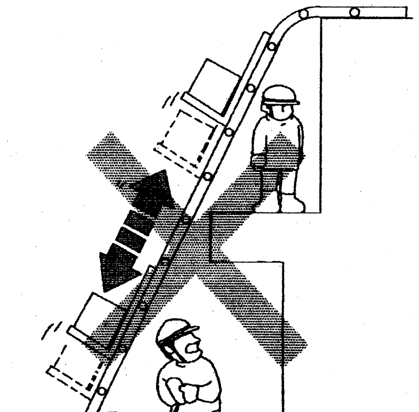
● 人の頭上を越えて荷を運搬しないで下さい。



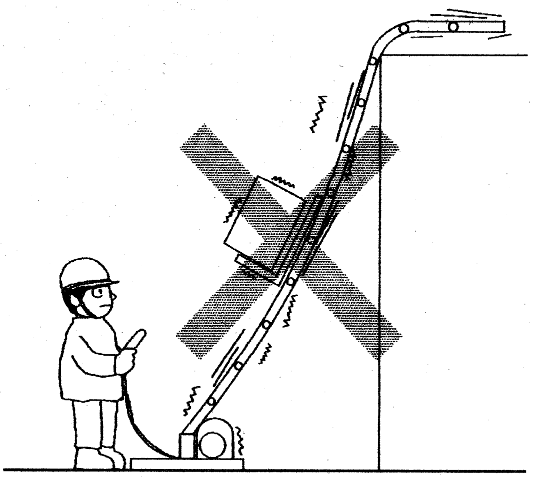
● 台車、荷台の下に入らないで下さい。



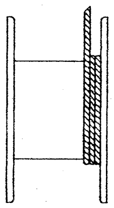
● 台車、荷台の動く範囲に人がいるときは運転しないで下さい。

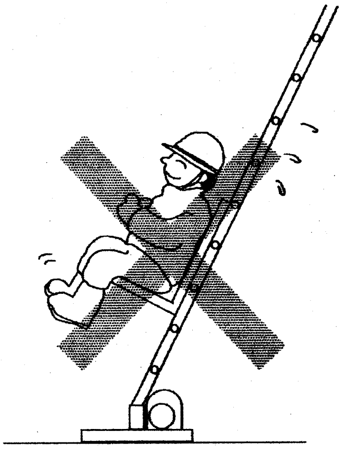


● 荷やハシゴを揺らせるような運転はしないで下さい。



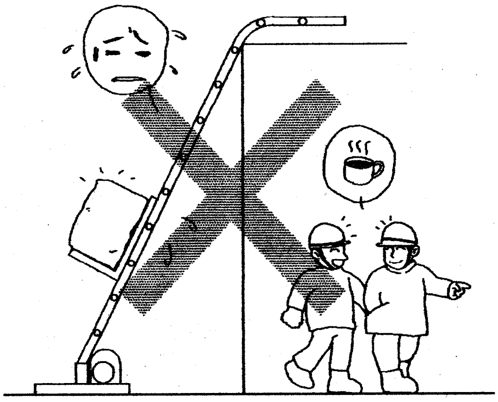
● 揚程を確認して使用して下さい。
ドラムを余巻きとして 3 巻以上ロープを巻き付けて下さい。



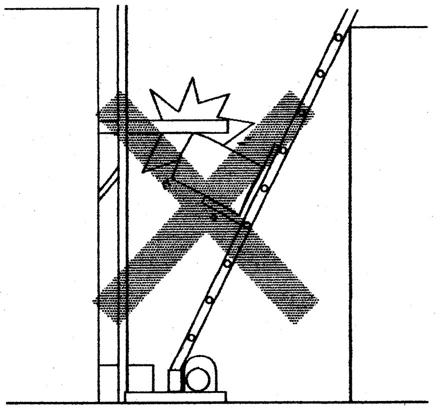


●荷台に人は乗らないで下さい。また人の乗る用途には使用しないで下さい。

●荷を積載したまま長時間放置しないで下さい。



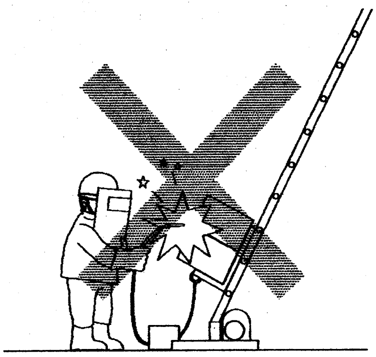
●台車、荷台が昇降時に障害物に接触するような設置をしないで下さい。



●押ボタンスイッチの指示と違う方向に動くときは、直ちに運転をやめて下さい。

●使用前にブレーキの動作を確認し、ブレーキが確実に作動しないときは運転しないで下さい。

●台車、荷台の上で電気溶接しないで下さい。

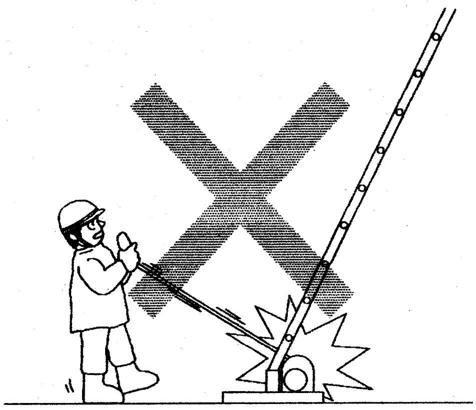


●損傷を受けたり、異音や異常振動がするときは荷揚機を運転しないで下さい。

●ワイヤロープに電気溶接機のアースを接続しないで下さい。

●ワイヤロープに溶接スパッタを付着させないで下さい。

●操作コードを引っ張ってはいけません。

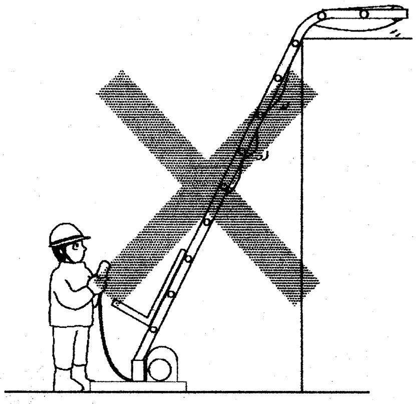


●台車、荷台を他の構造物や配線などに引っ掛けないで下さい。

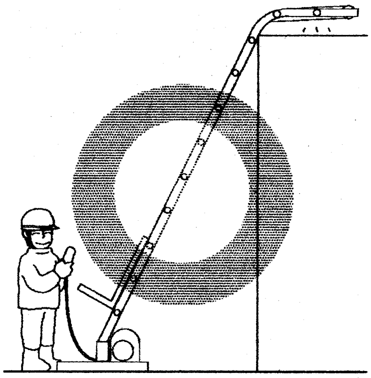
●本体に取り付けられた警告及び注意表示の銘板やラベルを外したり、不鮮明なまま使用しないで下さい

●プラッギング(急逆転)や過度のインチング(寸動運転)をしないで下さい。

●台車、荷台を揚げるとき、いったんタルミをとってから巻上操作をしましょう。

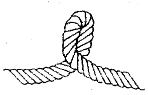


※地切りの時の衝撃を和らげます。



●ワイヤロープに次の異常があるときは運転しないで下さい。

・キンク、形くずれ、腐食があるもの

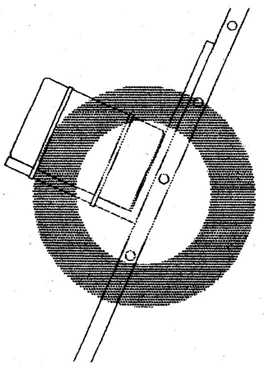


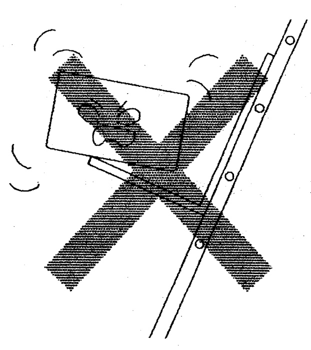
キンク

・ロープ1よりの間において素線の数が 10%以上断線しているもの、摩耗が大きいもの。

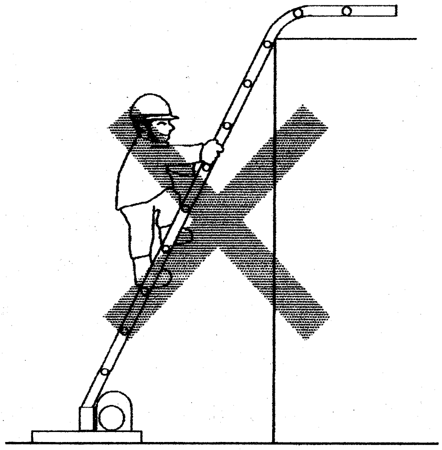
素線切れ

●昇降中に荷がずり落ちないよう、台車、荷台に荷を深く置き、不安定な荷はしばるなどして台車、荷台に固定して下さい。

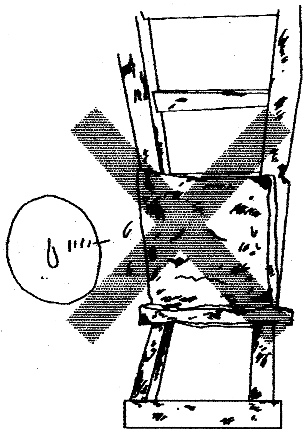




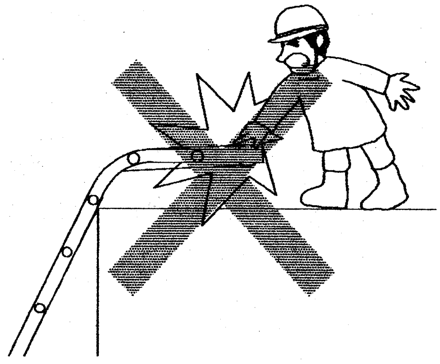
●ハシゴを登る用途に使ってはだめです。誤って他の人が運転することがあります。



●サビや変形の著しい状態で使用しないで下さい。



●ワイヤロープに触ってはいけません。



05016R. jtd

1-5. 保守点検、改造について

危　険

改　造　禁　止●製品および付属品の改造は絶対しないで下さい。
交　換　部　品●トーヨーコーケン純正部品以外は絶対使用しないで下さい。

電　源　遮　断●保守点検、修理を実施する前に必ず電源を遮断して下さい。
点　検　資　格●保守点検、修理は、事業主が定めた専門知識のある人が行って下さい。
空　荷　点　検●保守点検、修理をするときは、必ず空荷（つり荷がない）状態で行って下さい。
異常使用禁止●保守点検で異常箇所があったときは、直ちに補修して下さい。

注　意

作業中表示●保守点検、修理を実施するときは、作業中の表示（『点検中』や『通電禁止』など）を必ず行って下さい。

1-6. 保管について

注　意

保　管　場　所●本体から潤滑油を抜き取らず外部の汚れ、油、セメントなどを除去し、湿気の少ない場所に保管して下さい。

ご注意

●分解、組み立てを伴う検査項目は必ずトーヨーコーケンあるいはトーヨーコーケンの特約店にご用命下さい。
●ウインチの詳細は、別紙ベビーウインチ取扱説明書をご参照下さい。
本説明書とはワイヤロープ長と上限リミット作動位置が異なるのみです。

2. 荷揚機の保守・点検

危　険

点検・整備の際には必ずスイッチを切り、電源プラグを一次側電源コンセントから抜いて下さい。
・プラグを電源につないだまま行うと、感電や事故の原因になります。

保守・点検項目

	保守・点検項目	点検時期			
		毎日	20時間または3ヶ月使用毎	1年毎	3年毎
1	●ブレーキの動作に異常がないか。 通常のブレーキ作動状態をメモしておく。 ●ブレーキ部オーバーホール ライニングや圧着板、爪等が著しく磨耗したり、局部的に磨耗していないか。	■			■
2	●モータカーボンブラシが磨耗していないか。		■		
3	●モータの清掃（特にカーボン粉）			■	
4	●操作スイッチ、操作コードに破損や外傷がないか。 ●操作スイッチのボタンを押したとき正常な動作をすることを確認する。ロープ巻取り方向と押ボタンの関係が一致していることを確認する。 ●コンセント、電源コードに破損や外傷がないか。	■ ■ ■			
5	●ワイヤロープに素線切れが発生していないか。 ロープの１より間において素線数の10%以上切断していないことを確認する。 ●ワイヤロープに変形、損傷がなく、潤滑(ｸﾞﾘｰｽ)もされているか。	■ ■			
6	●ギヤケース、モータ、制御器にヒビや変形、磨耗、錆がないか。	■			
7	●ハシゴ部、金具類、上部滑車部、台車部、支柱部にヒビや変形、磨耗、錆がないか。	■			
8	●ボルト、ナットの弛みがないか、溶接部に異常がないか。	■			
9	●ギヤケースのオイル交換			■	

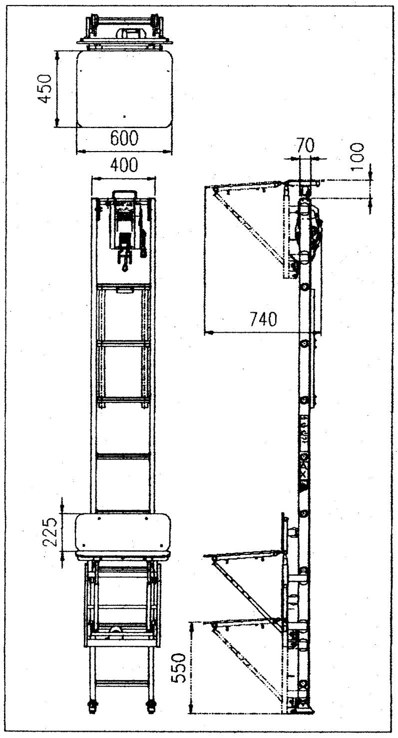
注）・点検時期は普通の使用状態[１日の平均通電時間３０分以下の軽負荷（５０％以下）]におけるものです。
・各部材表面積の50%以上錆びたとき、もしくは局部的に錆が深く浸食している場合は交換が必要です。
・修理や部品交換に際しては弊社の純正部品をご使用下さい。

050272. jtd

3．仕様

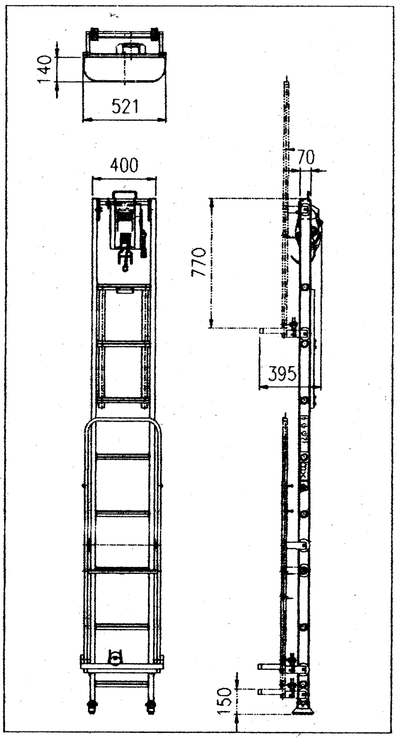
	型式		JA3AX	JA3BX	JA3CX	JA4AX	JA4BX	JA4CX
仕様	積載荷重		100Kg 以内					
	上昇速度		14m/min					
	電 源		家庭用 AC100V					
	ウインチ出力		300W					
	立てかけ角		65°~90°					
	操作方法		2点押釦 遠隔操作 5m ／電源5m					
寸法	梯子長		3000			4000		
	荷台寸法	A 荷台	600W×450D×225H			600W×450D 225H		
		B 荷台		480W×1500H×140D			480W×1500H×140D	
		C(パレット寸法)			530W×370D			530W×370D
	ワイヤロープ		φ4×6m メッキ			φ4×8m メッキ		
重量	梯子本体		9kg	9kg	9kg	11kg	11kg	11kg
	ウインチ		11kg					
	台車		4.5kg	8kg	6.5kg	4.5kg	8kg	6.5kg
	荷台(追加取付式)		8kg	———	———	8kg	———	———
	その他		3 kg（コードセット）					
	総重量		35.5kg	31g	29.5kg	37.5kg	33kg	31.5kg
安全装置(ウインチに内蔵)			過巻き、逆巻きリミットスイッチ					

4． 外形図



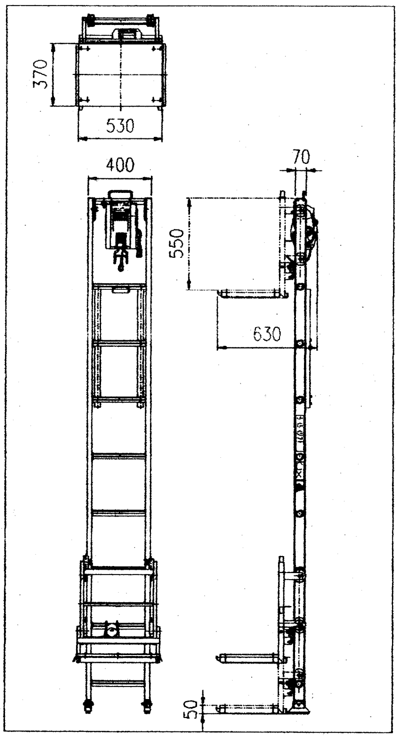
JA3AX, JA4AX

A荷台



JA3BX, JA4BX

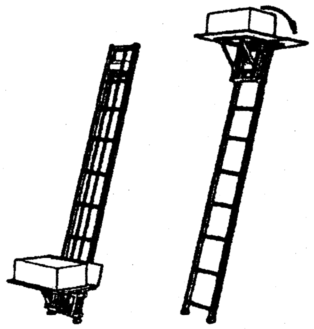
B荷台



JA3CX, JA4CX

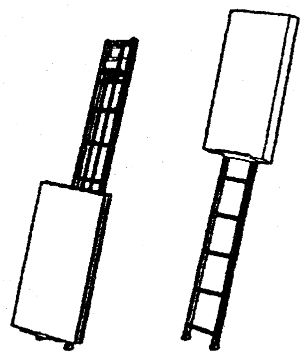
C荷台

A荷台



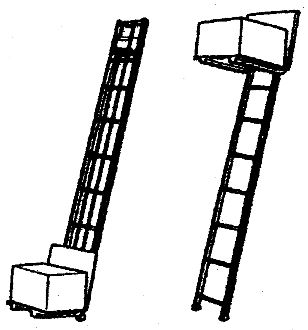
上限で背板が反転します
ので、後方から荷物を取り
込めます。

B荷台



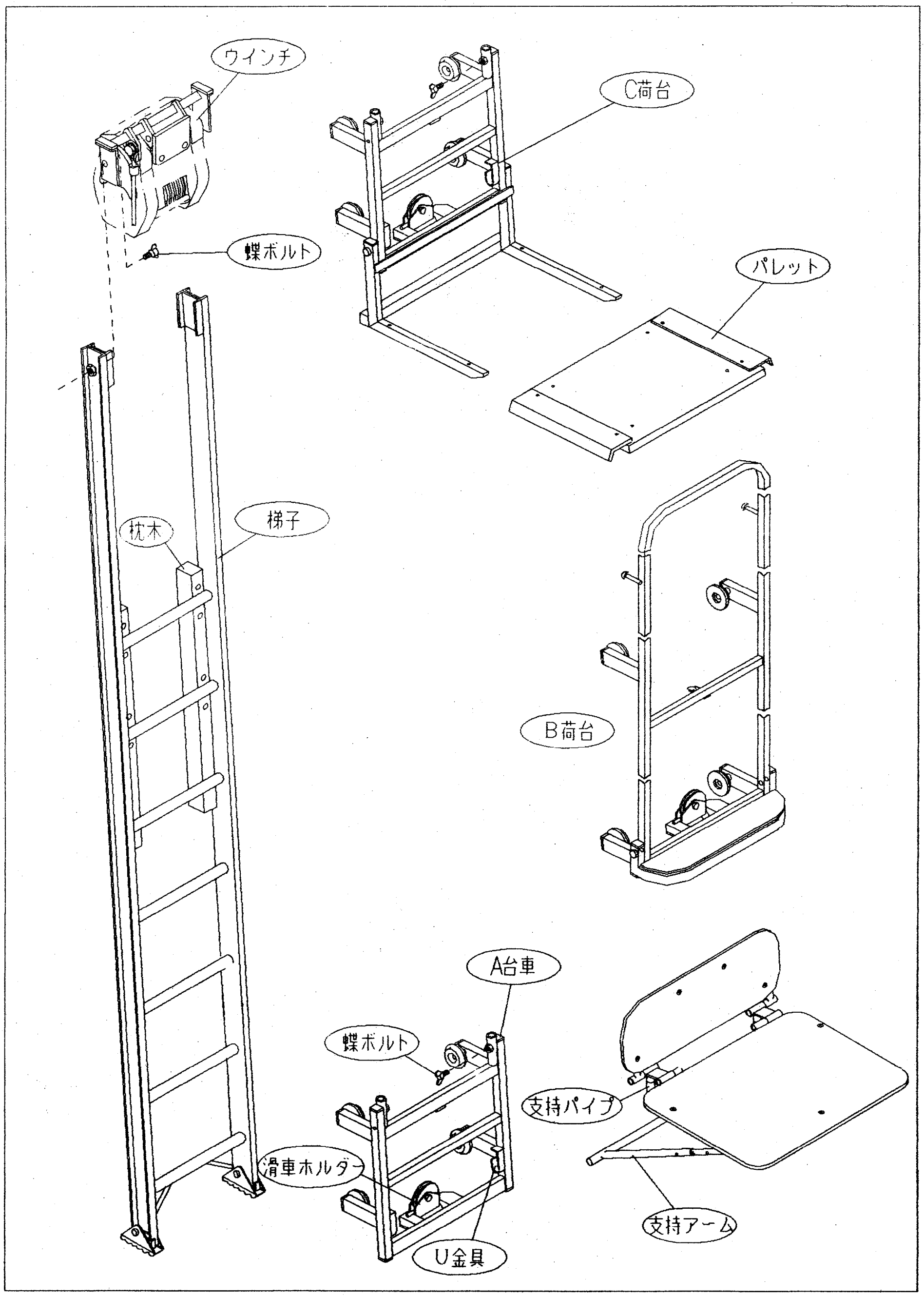
ボード状の荷物専用の荷台
です。上限では横から荷物
を降ろします。

C荷台



パレット式の荷台です。
運搬車を併用すると積み
替えなしで荷台に移載できます。

5.組図

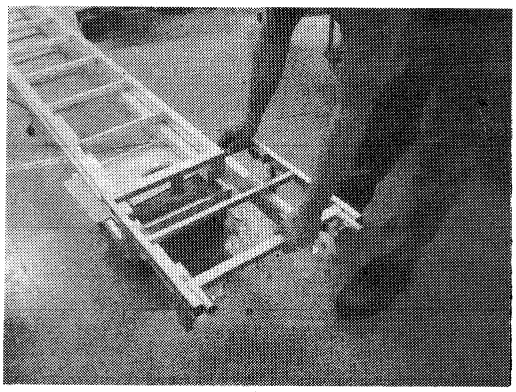


050272. jtd

6.らくらくリフトの設置方法

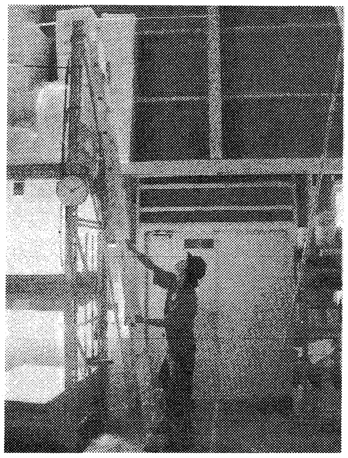
① 台車の挿入

梯子の上端から台車を差し込みます。この時、丸パイプに蝶ボルトが付いている方が上向きになる様にセットしてください。また、台車は枕木が付いている方と反対側に来る様に差し込んでください。



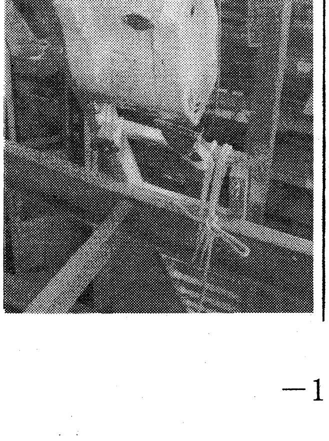
② 梯子の立て掛け方

まず、差し込んだ台車を梯子の下端に置き、立て掛ける構造物に立て掛けて下さい。なお、梯子が長い場合や持ち上げるのが困難な場合は、梯子上端にロープを結び、１人がロープを持って引き上げて２人で建て屋に立てかけて下さい。



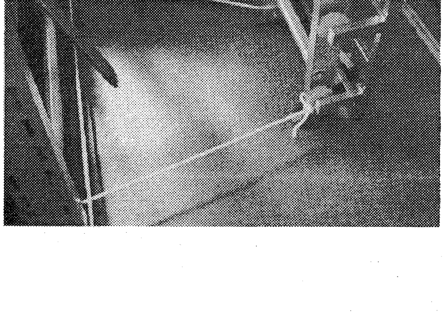
⑤リフトの上部の固定

リフトの立て掛け角度を決めた後に、枕木を適切な位置に移動し、ロープで建て屋（手すりなど）とリフトのステップを固く結んでください。この時、ウインチが直接建て屋に当たらないように、注意してください。



⑥リフト下部の固定

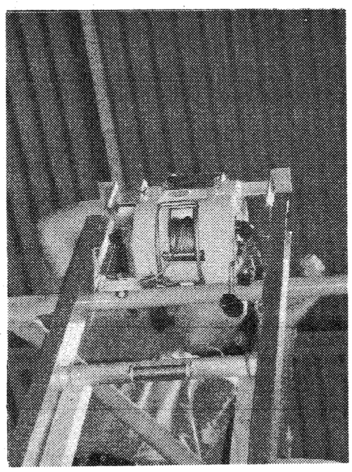
上部と同じく下部も、ロープを縛り付ける所が建て屋側にある場合、ステップとの間をロープで張ったり、ステップと共に縛り付けたりしてください。



050338. doc

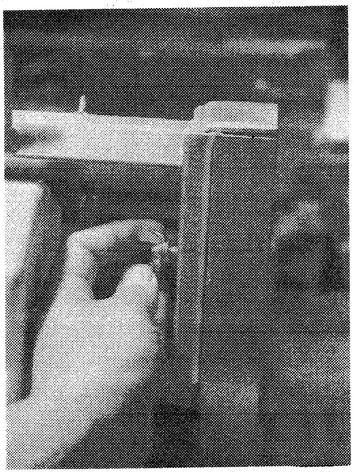
③ ウインチの取付

ウインチを梯子上端に持っていき梯子の上端に付いている金具にウインチを差し込みます。この時、体を乗り出して落ちない様に安全帯をしてください。



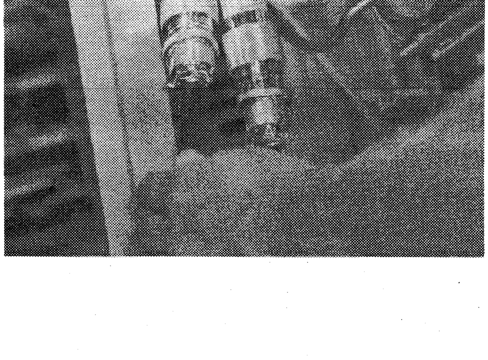
④ ウインチの固定

差し込んだウインチを梯子に固定するため **M8×25** の蝶ボルトにて固定します。尚、ウインチの取付方向を間違いますと蝶ボルトがはいらないので注意してください。



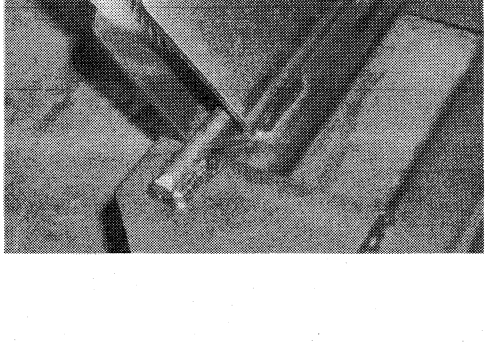
⑦２本のコードの接続

次にコードを接続します。リフト上部の裏側から２本のコードを接続し、コネクタリングを固く締めて下さい。なお、コード類は、リフトの裏側を通してください。



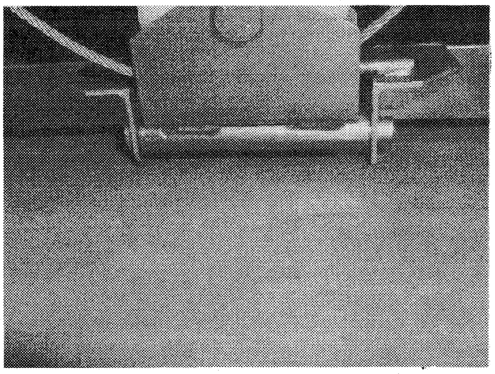
⑧ワイヤロープの固定

次にワイヤロープを台車に固定します。まず、操作コードの下ボタンを押して滑車を下におろしてください。
次に台車の下部に写真のように取り付けてください。この時、台車に溶接してある丸棒が滑車ホルダーの中に入るようにしてください。



⑨ 滑車の固定

次に滑車を固定します。
滑車の軸に付いている松葉ピンを外し軸を台車と滑車に通します。軸を通したら再び松葉ピンを通して軸が抜けない様にします。この時、ワイヤが交差していないか確認してください。

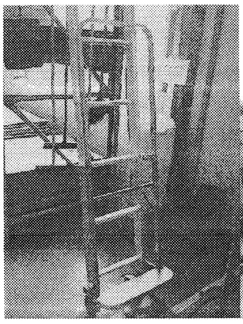


⑩ 荷台の組み込み　A台車

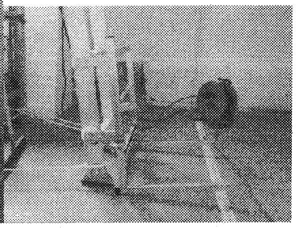
台車のちょうボルト付のパイプ穴に、荷台の支持パイプを差し込み、ちょうボルトをしめて、斜めの支持アームをU金具で受けてから、荷台が水平になる様にピンで調節してください。

⑪ 台車を開く　B、C荷台

折り畳み式荷受台を開いてください。
C荷台は、付属のパレットを使用してキャリボー台車（オプション品）と組み合わせると荷の横移動が大変らくになります。



B荷台

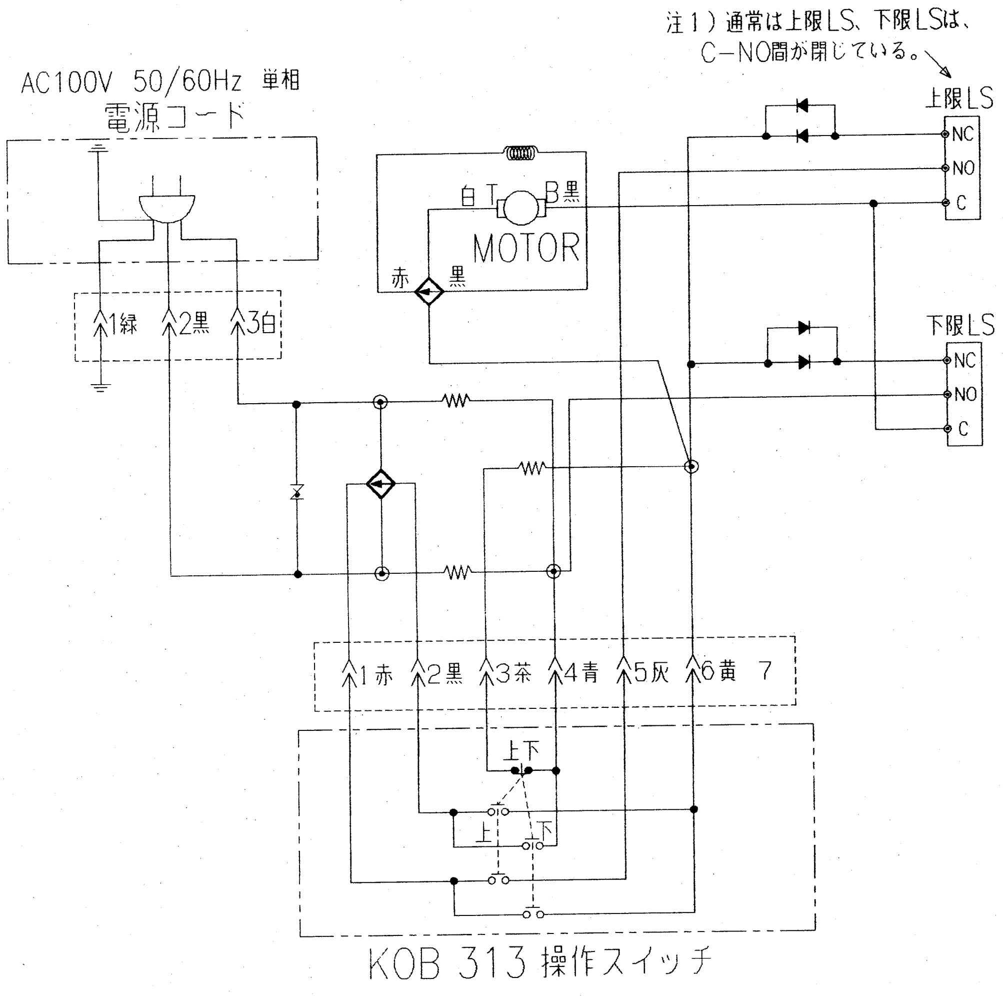


C荷台

以上でリフトの設置は完了です。実荷運転を開始する前に、空荷で一往復運転して、走行に異常がないかを必ず確認してください。

注意：ウインチにワイヤロープをしまう際は、滑車ホルダーが上限のリミットに当たる前に停止させてください。また、滑車ホルダーと上限リミット、ウインチの本体の間には手を入れないでください。挟まれたりして大変危険です。

7. 配線図

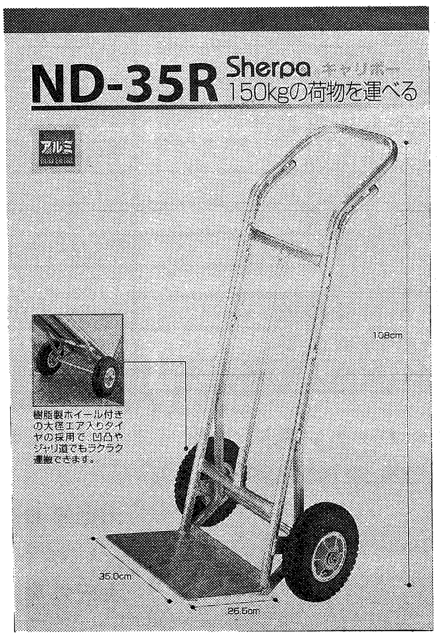


オプション

キャリボー台車

ND-35R

ND-35S



050272. jtd